

神奈川県自動車交通共済協同組合 <http://shinkokyo.or.jp/>

高品質なマイグレーションで 世代交代に備えた環境整備に成功

課題

メインフレームで運用していた基幹業務の保守費用低減、現場ニーズに即した機能拡張、担当者の世代交代などが大きな課題に

解決

既存資産を継承しつつ、それらの課題を解決するため、日立グループとともにオープンシステム環境へのマイグレーションを実施

効果

最新のWindows®プラットフォームへの移行により、すべての課題をトータルに解決。次世代に業務をつなぐ環境が整備できた

神奈川県自動車交通共済協同組合（以下、神交共）は、神奈川県下の自動車運送事業者を対象に、加入組合員の経営基盤安定と、万一の事故の際の被害者救済を目的に、自動車共済、自賠責共済などの保険商品を提供している組織です。

約870社の組合員を擁する神交共では、契約管理や料率管理、共済金管理などを行う共済システムを、これまで日立のメインフレーム（AP7000/VOS1）とオープンシステム（HA8000/Windows®）の組み合わせで運用して



神奈川県自動車交通共済協同組合の業務を支える「HA8000」

いましたが、2013年にオープンシステム環境への統合を決断しました。

メインフレーム担当者の世代交代に向けて

企画部 部長の片桐 敦郎氏は「オープンシステム環境への統合を決断した理由は大きく3つあります。第1に保守費用などのランニングコスト低減。第2にオープンシステム環境による処理性能の向上と現場ニーズに即した機能拡張・拡充の実現。そして第3にCOBOL技術者のノウハウ継承です。この3つの課題に対応するため、AP7000の保守期限切れのタイミングでマイグレーションを行うことにしました」とその背景を語ります。

なかでも大きな課題となっていたのが、メインフレーム担当者の世代交代を図ることでした。「現在運用している基幹システムは、私が若い頃に一から作ったシステムです。しかし私が数年後に定年を迎えると、COBOLの知識と技術を持った担当者が、電算課の金子担当課長代理だけになってしまう。今後も頻繁に発生するプログラムの開発や将来的なリプレースの負担を考えると、私が現役でいる2人体制のうちに技術継承や保守作業がしやすいオープンシステ

ム環境に移行した方がいいと判断したのです」と片桐氏は続けます。

今後の基幹システムの開発・運用を担う企画部 電算課 担当課長代理の金子 慎治氏も、「既存資産を有効活用しながら、現場ニーズに対応した機能拡張・拡充を図っていくには、私に続く後継者の育成期間を考慮すれば、このタイミングしかありませんでした」と片桐氏の言葉を補います。

日立オープンミドルウェアを活用し、効率的な移行を実現

既存プログラムを継承しつつ、最新鋭クラスのIT基盤を構築するパートナーとして選ばれたのが、長年メインフレームの運用を支援してきた株式会社日立ソリューションズ（以下、日立ソリューションズ）。金子氏はその選定理由を「長年のおつきあいから人脈もあり、われわれの業務を熟知し、何よりも安心感があったから」と語ります。

プロジェクトは、片桐氏と金子氏による「資産棚卸」と「移行計画の立案」からスタート。日立ソリューションズは、神交共独自のシステム・ライブラリ運用設計に従い、作業効率を向上できる日立のオープンミドルウェアを適用したマイグレーションの支援を行いました。



神奈川県自動車交通共済協同組合

神奈川県自動車交通共済協同組合

所在地 横浜市港北区新横浜2-13-4 神交共ビル
 設立 1972年
 役員員数 60名(2014年12月1日現在)
 組合員数 863社(2014年12月1日現在)
 業務内容 貨物自動車運送事業者を対象とした
 自動車共済・自賠責共済



具体的には、「COBOL85」の業務ロジックを容易に移行できる「COBOL2002」を開発実行プラットフォームに、データベースはCOBOL2002との親和性が高いノンストップデータベース「HiRDB」^{ハイアルディービー}へ移行。画面や帳票の定義/作成は「XMAP3」^{エクスマップスリー}によって使い慣れた操作性を継承し、対話操作支援のメニュー選択で従来どおり、クライアントPCから業務ジョブを実行できるようにしました。

さらに、統合システム運用管理「JP1」の SCRIPT でバッチジョブを作成できる「JP1/Script」と、日々の定型業務ジョブや運用ジョブを簡単にスケジューリング可能な「JP1/AJS3」^{※1}により、これまでと同等の運用環境をオープンな日立アドバンストサーバ「HA8000」上に実現しました。品質確保に向けた現場社員の徹底的なテストを経て、2014年7月に予定どおりシステム切り替えを果たしました。

※1 JP1/Automatic Job Management System 3

幅広いコスト低減と業務効率向上を評価

金子氏は「運用に関するランニングコストが約1/3カットできたほか、AP7000で稼働していた基幹システムを、HA8000サーバ1台で稼働させることができ、周辺システムで使用しているHA8000サーバを含む7台がワンラックに収まったことで、サーバラームの省スペース化と省電力化にも貢献していま

す。処理速度も速くなり、以前は30分かかっていたバッチ処理が5分程度に短縮されました。業務のレスポンスが良くなったことで、現場社員からの評価も上々です」と喜びます。

片桐氏も、「基本的なプログラムはCOBOLのままですが、データベースをオープン化したことで、他言語で開発している周辺システムとの連携性が良くなったり、業務拡張や保険内容の改訂に合わせたシステム開発に伴うデバッグやファイル操作も従来に比べて格段に楽になりました。またメインフレームでは実現困難だったBCP対策も今後実現しやすくなります」と、世代交代に向けた環境整備の進展に笑顔を見せます。

今回のオープンシステム化に合わせ、外出先からモバイルPCでオフィス内の自席PCにリモート接続が可能なセキュアリモートデスクトップ「Array DesktopDirect」^{※2}を導入。契約課の社員が得意先などで、契約内容確認や見積業務を柔軟に行える環境を構築し、現場からの業務改善ニーズにも応えました。

また帳票の電子化を実現する統合電子帳票システム「PaplesWeb」^{パピレスウェブ}^{※3}の



神奈川県自動車交通共済協同組合 企画部 部長 片桐 敦郎氏

神奈川県自動車交通共済協同組合 企画部 電算課 担当課長代理 金子 慎治氏

活用で、メインフレーム時代なら、紙に出力しなければならなかったチェックリストなどを画面上にて確認でき、ペーパーレス化も成功。「紙資源のムダをなくすとともに、情報共有のスピード化による業務効率向上にもつながっています」と金子氏は評価します。

※2 日立ソリューションズが提供する製品

※3 日鉄日立システムエンジニアリングが提供する製品

次世代へ向けたシステム進化を追求

一連のマイグレーションを支援した日立グループに対して片桐氏は「最後の最後までしっかりとわれわれの要望をくみ取ってくださり、日立の皆さんには本当に感謝しています」と語ります。業務アプリケーションの継続的な進化と、その発展を支える新たな人材育成に取り組む神交共を、これからも日立グループは高信頼のオープンミドルウェアを核としたプラットフォームソリューションの提案によって、力強くサポートしていきます。

お問い合わせ先

HCAセンター

0120-2580-12

利用時間 9:00~12:00、13:00~17:00(土・日・祝日を除く)

情報提供サイト

<http://www.hitachi.co.jp/soft/>